



2021年度

文学作品カレンダー



文学作品とは

言語表現による芸術作品のこと。
文芸ともいう。

それらを研究する学問も文学と
称されるが、これについては
文芸学で扱う。

狭義には、詩・小説・戯曲・随筆
・文芸評論などを典型的な
文学の例とする。

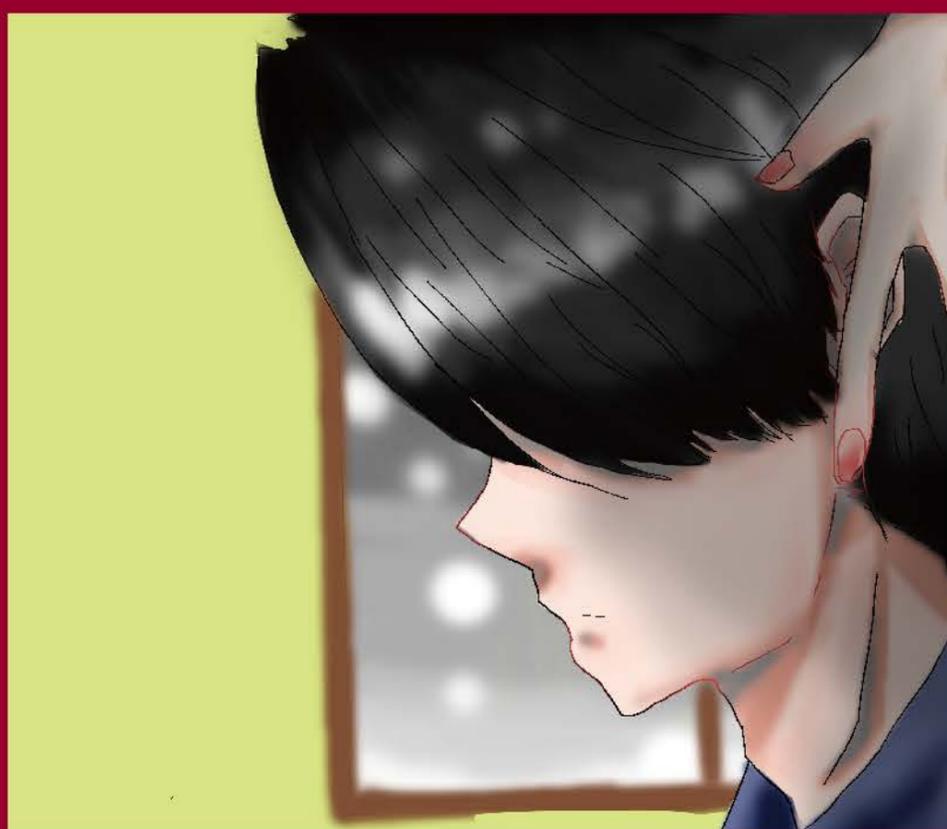


一月

年中行事覚書

柳田國男

消えるかも知れない年中行事についての作品です。季節の節目の行事やそれにまつわる噂話、俗語などが書かれており、その中には、耳に入れた事すらないものやどこか聞き覚えや見覚えのある話、風習など読んでいて色々と知ることの出来る大変楽しい作品であります。



チャンス

太宰治

まだ学生の時、大寒の頃酒も飲まずただそこに居ただけの「私」に対して興味を持つ芸者が一人いた。その芸者は綺麗なほうであったが、「私」はあまりそのような感情抱けずにいた。しかし女のほうは…。太宰本人の出来事を元に彼自身の恋愛に対するの考えを綴っている作品です。

目 月 火 水 木 金 土

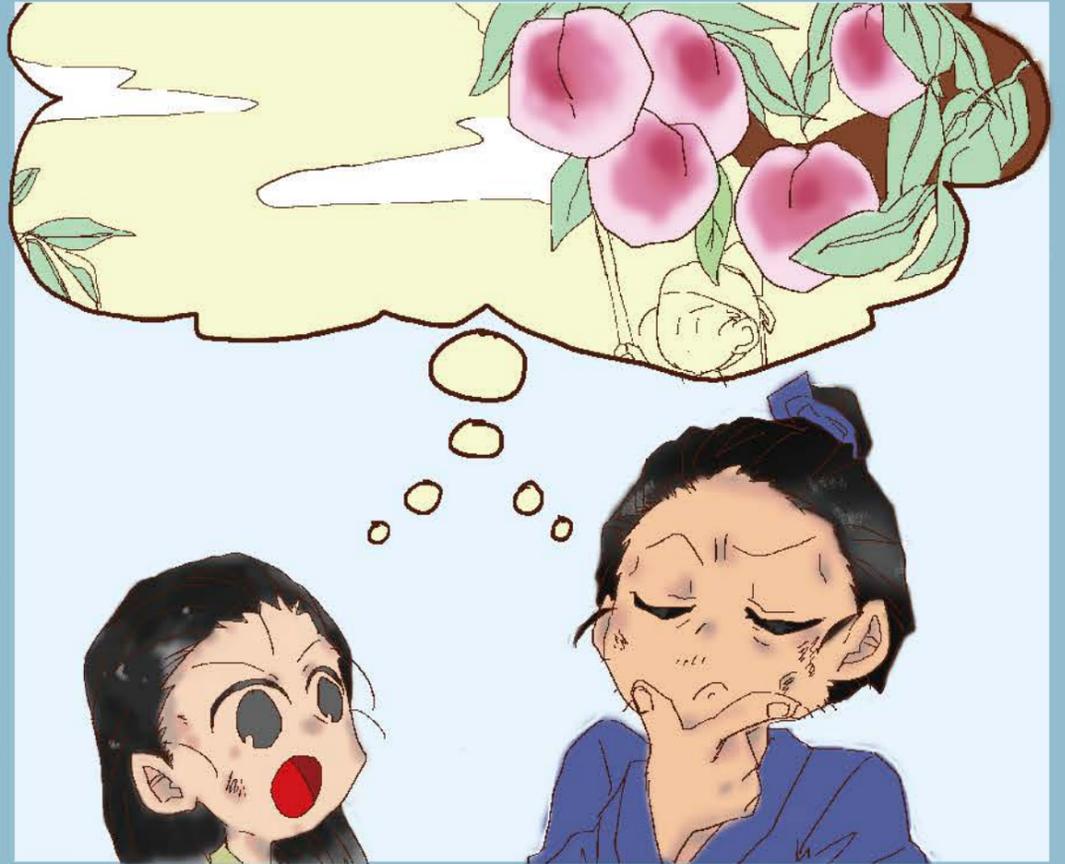
					1	2
3	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

二月

偷桃 (ちゅうとう)

浦松齡 (ほ しょうれい)

ある立春の頃、街に行った時
なにやら人だかりができてい
て、その中心では役人と親子
が話している・・・。
幼少期の頃の作者を主人公に
した作品で、あっさりと読め
て頭に残る作品です。
これが元のアニメも製作され
ているのでそちらを見るのも
良いと思います。



冬の雨の夜

中原中也

不気味でもあるが不思議と
引き寄せられる詩です。
作者、中原の処女作『山羊
の歌』の詩の一つです。
彼の作中の描写にはオノマ
トペ (擬音語) 何度も繰り
返し使うのだがそれが面白
く、音が良いのでこの詩以
外も読んで貰いたいです。
aé ao, aé ao, éo, ae aéo éo !

日 月 火 水 木 金 土

1	2	3	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

三月



山の春 高村光太郎

「春と言うが・・・」という文章が一行目である。
タイトルのおりに春の山について語るのだが、まだ雪の積もる山の様子から始まります。
その山が春の訪れを感じていくさまが作者の楽しみなどと共に書かれていて、春の季節の変化を感じるにはオススメです。

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

四月

虎媛 (こえん)

田中貢太郎

時代は明の末の頃、中洲に焦鼎(しょうてい)という男が居た。彼が街を歩いていると殺されそうな老いた虎がいた――。類似したものを聞いた事があるかもし知れないが、それぞれ結末が違うのでそこを読み比べてみるのは面白いです。



山椒魚 井伏鱒二

岩屋の中から出られなくなった山椒魚の心の変化を書いた作品。寂しいが故に他者を巻き込みのちに後悔するが時すでに遅くどうしようもなくなってしまおう、悲しくも読み応えのある話です。

日 月 火 水 木 金 土

				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

五月

北穂天狗の思い出

上村松園

作者の旅日記の一部。
当時、雑誌に連載されていました。
話自体は、大変短いのですが山々の様子は伝わってくるような文だと思います。
写真を見ながら見てみるのがおすすめです。



高原

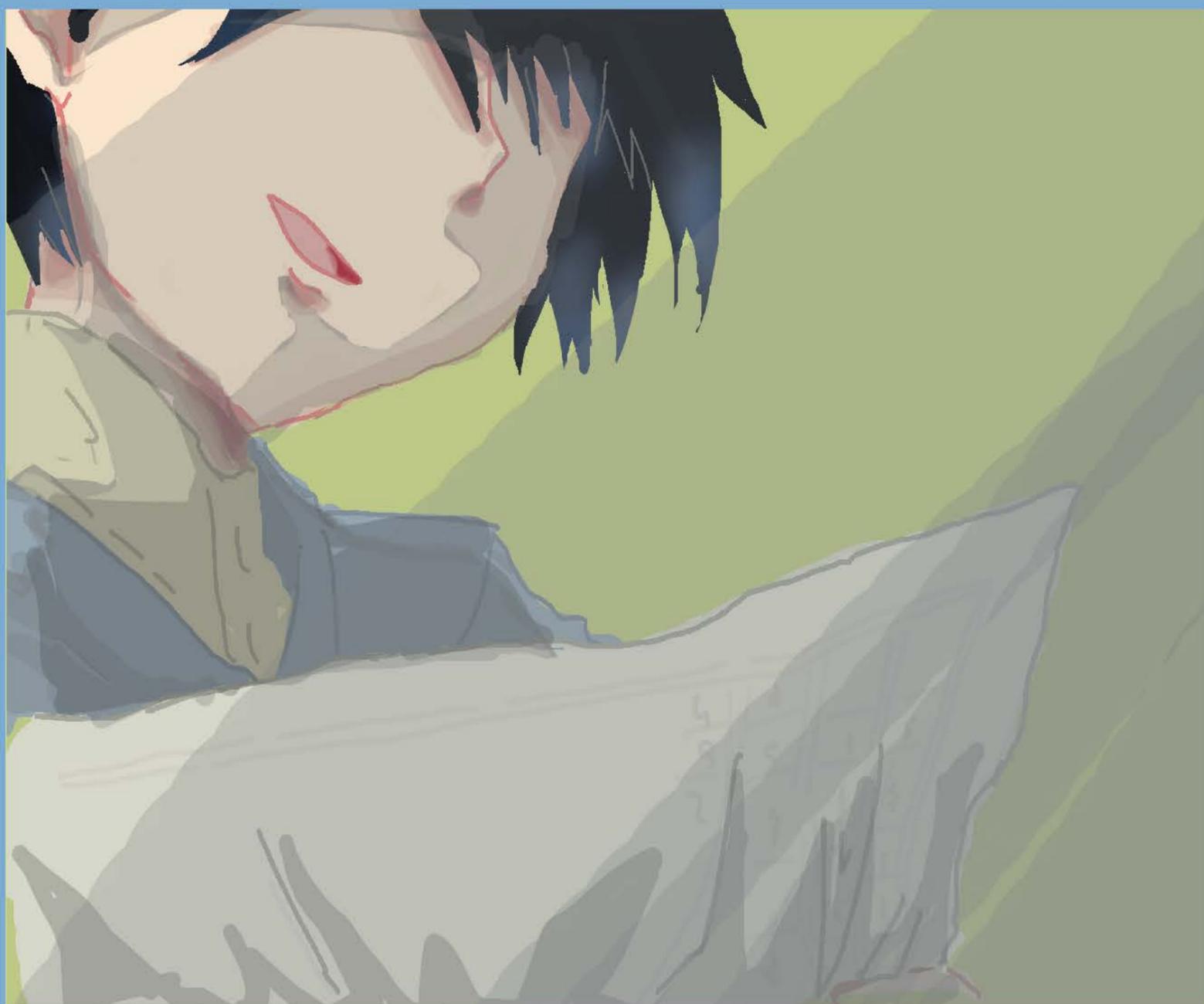
宮沢賢治

宮沢賢治が見た景色の感想の詩。
岩手の草の広がる高原でまるで海のようにだと叫びながらはしゃぐ、そのような姿がとても晴れた気持ちにさせてくれます。
宮沢賢治と言えば冬のイメージなどがありますが、このような作品珍し感じます。

日 月 火 水 木 金 土

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 / 31	24	25	26	28	29	30

六月



或阿呆の一生 芥川龍之介

『或阿呆の一生を笑ってくれ。』

主人公の人生を短編で項目ごとに書いた作品

身内のことや自分のことを短かく 30 も書いています。

少し投げやりな書き方がまた彼の心情を表していて良いです。

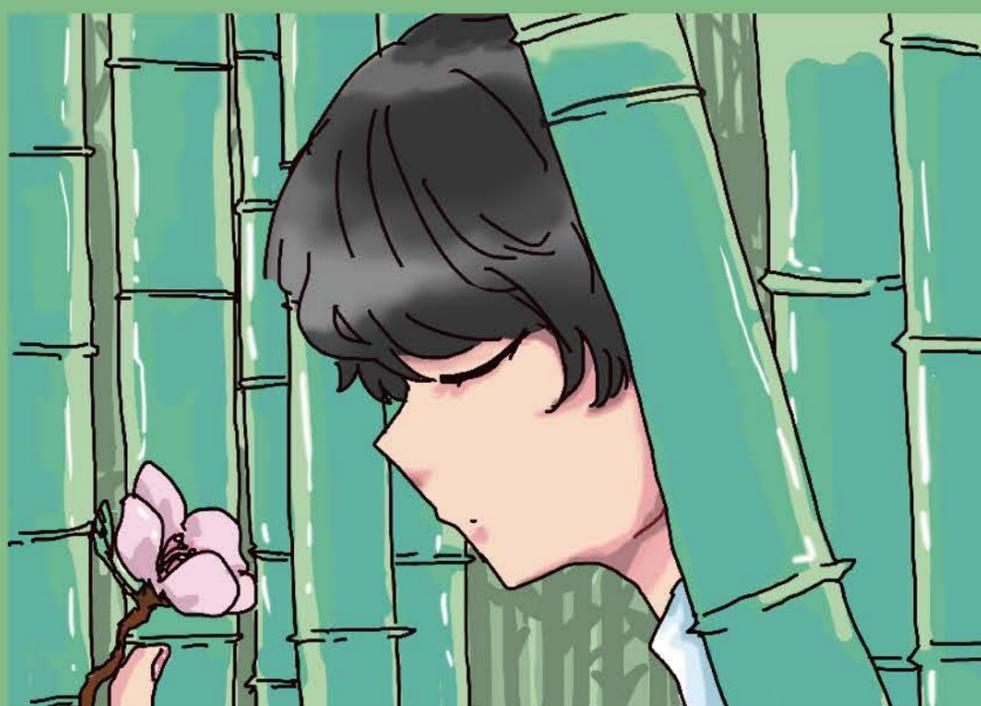
目 月 火 水 木 金 土

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

七月

檸檬 梶井基次郎

「私」の中にあるえたいのしらない不吉な塊を抱えている・・・主人公である「私」の気持ちをもつや情景を象徴として書かれているのだが、文章として成り立たない所がしばしば、存在している。それは、「私」の心の乱れを表す。少々、難解な文章だが意味がわかる頃に自分も似たような気持ちを抱いていたように思える。



竹の声 桃の花

川端泰成

竹の声、桃の花が、自分のなかにあると思ふやうになったのは、いつのころからであろうか。

川端康成の中で見えない季節が見える様になったと言う話です。彼の作品には禅学から影響されていますが、この作品はそれがかなり表れています。

一言では言い表せれない表現の豊かさはとても良い気持ちにさせてくれます。

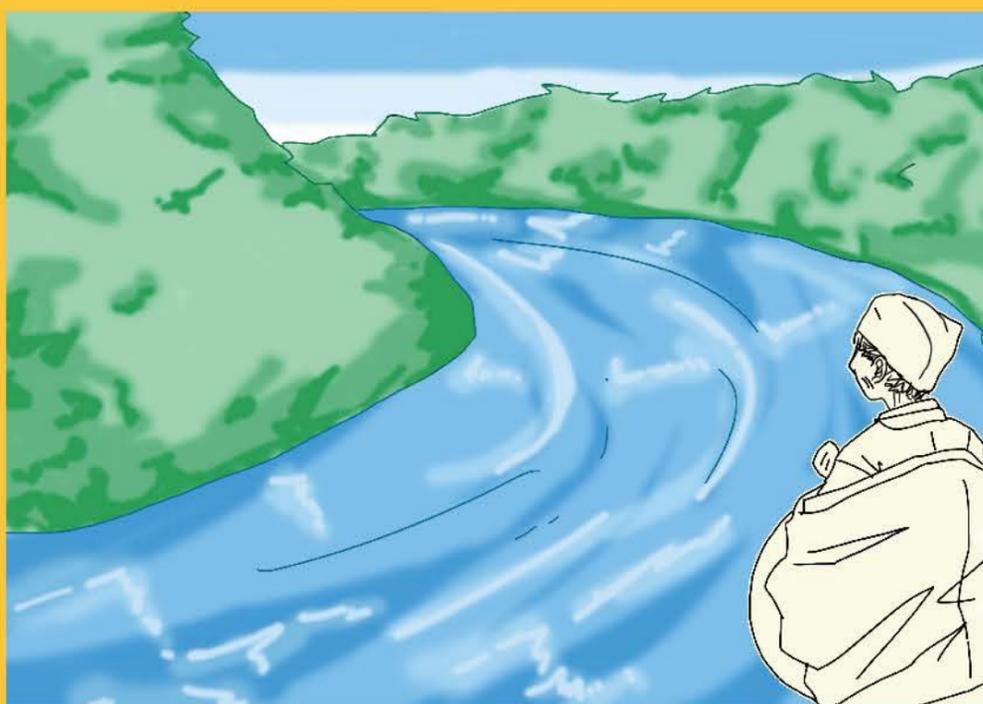
日 月 火 水 木 金 土

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

八月

夢十夜 夏目漱石

こんな夢を見た。
十個の夢の話で、よく分から
ない気持ちになりつつも
ひとつ話が終わるたびもう
終わってしまったのかと
思ってしまいます。
絵本のサイズで読める本も
最近はあるのでそちらから
でも読んで欲しいです。



奥の細道 松尾芭蕉

暑き日を 海に入れた 最上川
有名な俳人、松尾芭蕉の旅
路での句がつづられた作品
集。
春夏秋冬様々な句があり
5・7・5の音の響きは現代
を生きる我々にも心地よさ
を与えます。

目	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

九月



鴝のうた 室生 犀星 (むろお さいせい)

「鴝といふ鳥は百舌と書きます。」

何度も名前を繰り返すのが特徴的な所であり可愛らしくも感じる詩です。室生犀星の作品には動物を好む彼らしく様々な動物が取り扱われます。とてもファンタジーな作品の書き方を好む方には彼の作品はおすすめです。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

十月

武蔵野 国木田独歩

国木田本人が愛した武蔵野の地に対して日記のように形で残した作品です。

ありし武蔵野の地に対して思いを馳せる話であり、また彼の生活が営まれている時の武蔵野について書いています。

ロシアから思い出した武蔵野を「我武蔵野」と表している様子からかなり好んでいるようにも思えます。

ちなみにですが、東京の武蔵野には作者の記念碑があります。



竹取物語

「今は昔 竹取翁というものありけり・・・」

誰も必ず聞いたことのある話、「竹取物語」。

竹の中にいた可愛らしい女の子は美しく成長し、色々な男性に言い寄られる様になります。そんな彼らに条件を付けて、それに答えられれば結婚すると約束します。

その難題を達成しようとする人の行動がまた面白いです。

教科書にも載るほどに有名な作品ですが、改めて読んでみると面白いものです。

日 月 火 水 木 金 土

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 / 31	25	26	27	28	29	30

十一月

寒山拾得

森鷗外

「しかし間がいなくては話が成り立たぬから、ともかくもいたことにしておくのである。」

唐の頃に間丘胤（りよきゅういん）と言う役人がいました。彼は頭痛に悩んでいました。それを直した豊干（ほうかん）から、大変賢い僧の話の聞き会に行きたいと思ひ会いに行けば、寒山と拾得は笑いながら去って行きました。

この話は寒山拾得図の話をもとに森鷗外が覚え書きで書いた話です。最初は理解するのに時間が掛かりますが、わかると面白いです。



青猫

荻原朔太郎

「この美しい都會を愛するのはよいことだ」

荻原自身も『月に吠える』よりも愛していると言及する本書ですが、そうである理由に「私（荻原）の魂の最も奥深い哀愁が歌はれて居るからだ。」と話している。

そんな荻原の気持ちを味わえる青猫、おすすめです。

目 月 火 水 木 金 土

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

十二月



手袋を買いに 新美南吉

「こっちの方、ほら人間の手の方を差し出すのよ。」

狐の子が手が寒いと訴えると母狐は手袋を買いに行くのよ、と小狐銀貨を渡して買いに行かせます。その時に片手は人間手に変えそちらを差し出すよう指示しますが・・・

冬の中での温かい話でおすすめてです。

日 月 火 水 木 金 土

			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	